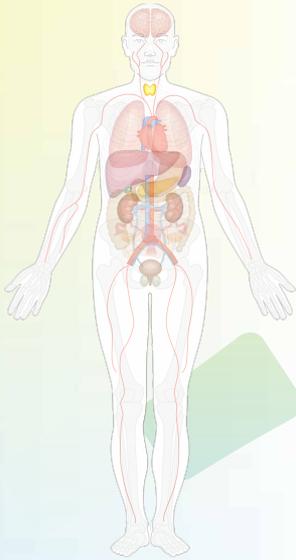




甲状腺疾患



検査項目		目的	甲状腺疾患	
※検査項目をクリックいただくと詳しい情報を閲覧できます。		対象		
生化学 I 総項目数	実施料	主な臨床的意義	10	5
	判断料		109	93
	●合算		144	144
			253	237
1	γ-GT	胆道閉塞・アルコール肝炎・脂肪肝		
2	AMY	膵臓・唾液腺・腎臓		
3	ALP	胆道・骨	●	●
4	AST	肝臓・心臓	○	
5	ALT	肝臓	●	●
6	CK	心筋・骨格筋・甲状腺	●	●
7	LD	心臓・肺・骨格筋・溶血	●	
8	コリンエステラーゼ	肝硬変・脂肪肝・農薬中毒・麻酔・栄養	●	
9	総ビリルビン	肝炎・胆道閉塞・溶血	●	
10	直接ビリルビン	肝炎・胆道閉塞		
11	クレアチニン	腎臓・筋肉量		
12	尿素窒素	腎臓・組織蛋白異化	●	
13	総蛋白	栄養		
14	アルブミン	栄養・炎症	○	
	A/G 比 (計算項目)	一般状態		
15	尿酸	痛風・腎臓・肥満		
16	ブドウ糖	糖尿病	●	●
17	中性脂肪	動脈硬化	●	
18	総コレステロール	動脈硬化	●	●
19	LDL コレステロール	悪玉コレステロール・動脈硬化		
20	HDL コレステロール	善玉コレステロール・動脈硬化	○	
21	HbA1c	糖尿病	○	
22	CRP	炎症		

・ HbA1c は血液形態・機能的検査項目で、実施料は 49 点、判断料は 125 点、CRP は、免疫学的検査で、実施料は 16 点、判断料は 144 点。
 * CRP の適応疾患については、診療報酬支払基金の判断に違いがあるので注意が必要
 ○は、計算項目で保険上算定できない。
 ●は、10 項目を超えることを容認するなら加える。

◆甲状腺疾患

- ・ 本症に関連する生化学検査項目としては、コレステロール、中性脂肪、CK、血糖、肝逸脱酵素 (AST・ALT)、骨由来 ALP、コリンエステラーゼが重要である。
- ・ 甲状腺機能亢進症では蛋白の異化が亢進し、肝臓で蛋白合成が亢進するためにコリンエステラーゼは高値となる。
- ・ コレステロール値と CK 値は、甲状腺機能亢進症と低下症では逆の変動を示し、機能亢進症では低下し、低下症では増加する。中性脂肪も多くの例でコレステロール値と同様の変動を示す。
- ・ この他では、尿糖が陽性になり、白血球数・赤血球数・血小板数が減少することがある。
- ・ チアマゾール (メルカゾール[®]) などの治療薬では無顆粒球症や肝機能障害を示す肝逸脱酵素の増加がみられることがある。
- ・ 生化学検査項目でスクリーニングし、甲状腺ホルモン、自己抗体検査、病理組織検査、画像検査などで確定診断する。